

第1回研究会

「龍谷の森」と周辺地域での取り組み

九州産業大学景観研究センター 博士研究員

林 珠乃

エコミュージアムとは一般的に、その地域で受け継がれてきた自然や文化、生活様式を含めた環境を、総体として研究し、永続的な方法で保存・展示を行い、活用する活動を指す。龍谷大学里山学研究センターは、エコミュージアムを目指して活動してきたわけではないが、上述のエコミュージアムの活動と重なる内容も多く行ってきた。里山学研究センターの研究結果のアウトプットを模索するためにも、これまでの活動内容をエコミュージアムの切り口で再検討することにした。

里山学研究センターの地域研究は、主に、龍谷大学瀬田隣接地（通称、「龍谷の森」）と瀬田学舎周辺地域の瀬田・田上地区を対象に行ってきた。「龍谷の森」では、生物標本の収集を中心とした生物のインベントリー調査に加え、生物の相互作用等の生態を明らかにする自然科学系の研究が行われていた。一方、瀬田・田上地区では、地域の生活や祭のシステム等の記述や、民具のインベントリー調査など、人文科学的な研究が行われてきた。

これらの研究結果は里山学研究センターの年報や叢書として報告される他に、展覧会や森内の掲示板システムによって、成果を公表してきた。森内の掲示板システムは、年報で報告されている「龍谷の森」の生物に関する研究の内12報を選び、その生物現象を観察しやすい場所に掲示した（図1）。また、瀬田・田上地区のくらしに関する研究成果については、「大・南大萱展—瀬田のいまむかし」（2007年4月）、「暮らしの中の造形展～田上絹と手拭～」（2008年5月）、「農耕文化と暮らしを支えた山と里の物語展」（2011年12月）の展覧会と関連シンポジウムにおいて、地域のくらしの様相を伝えるものを、研究成果による解説とともに展示し、また、地元の人々を講師に招聘して話題を提供していただくことにより成果の公表を図った。

さらに、里山学研究センターの研究スタッフを中心とした講義・実習を大学の教育プログラムに組み込むことにより、研究成果の教育方面における活用を行ってきた。「龍谷の森」では、龍谷大学理工学部環境ソリューション工学科・龍谷大学環境サイエンスコースの大学生・大学院生や、大津市瀬田北中学校等の地域の教育機関の学生を対象に実習を行うと同時に、龍谷エクステンションセンター（REC）の公開講座を開講してきた。また、瀬田・田上地域では、龍谷大学国際文化学部への授業や実習の対象とする他に、社会人向け公開講座で研究成果を紹介してきた。このような活用を行う資料として、「瀬田・田上鳥瞰絵図」（2007年、蔭山歩）、「南大萱の生態系サービスをめぐるルートマップ」（2009年度年報）、「上田上の生態系サービスをめぐるルートマップ」（2010年度年報）がまとめられてきた。

これまでの里山学研究センターの活動では、研究成果の活用が教育に限られている。地域について包括的にとらえた研究成果は、地域の魅力を抽出し、まちづくり等暮らしを豊かにする

活動に繋げることが出来るかもしれない。今後は、これまでの活動を継続すると同時に、研究成果を地域に還元する方策を考え、実行する必要があるだろう。

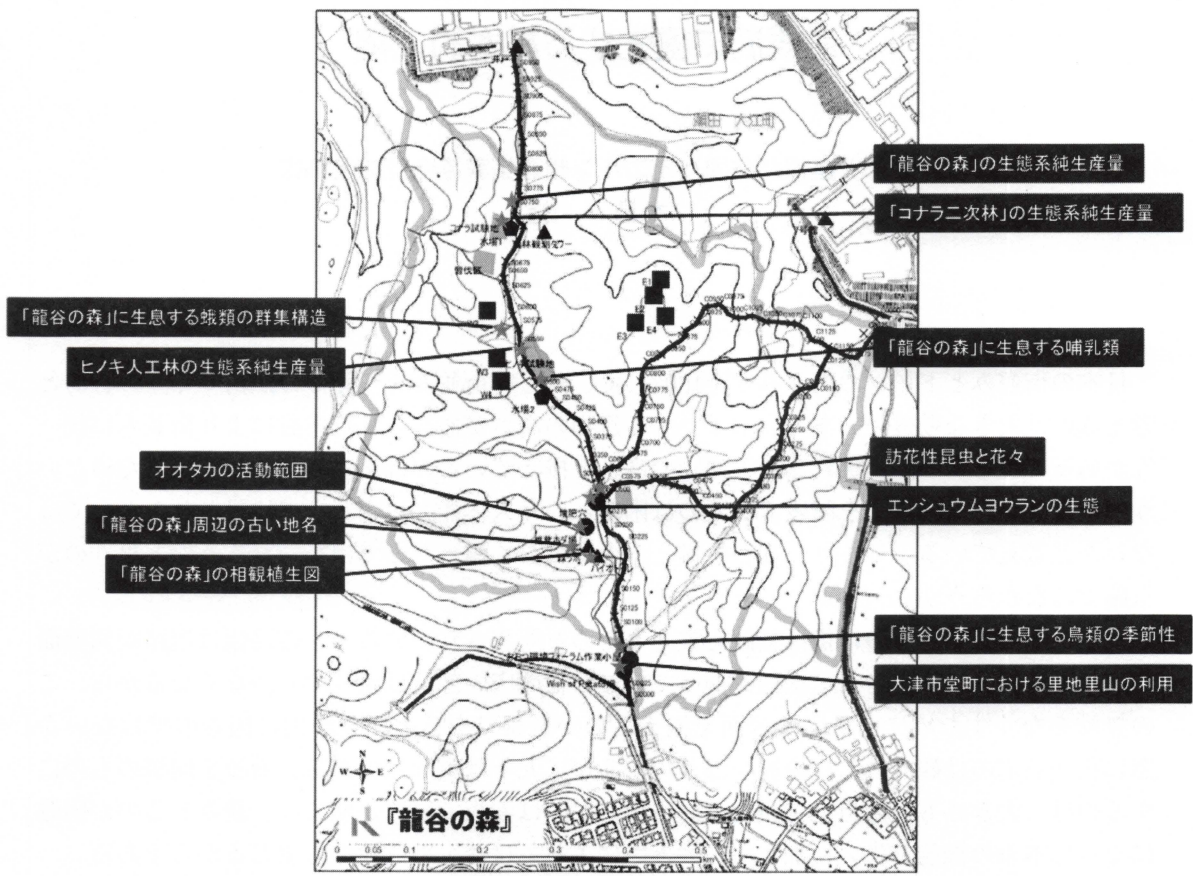


図1 「龍谷の森」林内に設置された研究成果揭示版の位置